テーマ 高校生と語る北秋田市

市長と語ろう！タウンミーティング

市のまちづくりや行政課題などについて市民と語り合う「第2回市長と語ろう！タウンミーティング」が12月26日に市民ふれあいプラザで行われ、北秋田市に生まれ育った高校生10人が、トークディスカッションを通して市長と意見を交わしました。

「市長と語ろう！タウンミーティング」は、市民に市政をより身近に感じてもらえるように、市民と市長が直接対話することを重視した意見交換会です。今回は「高校生と語る北秋田市」をテーマに、北秋田市に生まれ育った高校2年生10人と、当市に対して考えていることや感じていることを率直に話し合いました。

開会にあたり、津谷市長は「行政の施策は、大人の目線で考えているものが多い。皆さんからたくさんの意見を出してもらうことによって、自分たちだけではなく、次の世代にとっても有益な施策が展開できると思っている。本日は、気楽に当市に対する意見や自分たちの未来について語ってもらいたい」などとあいさつしました。

続いて、県北の若手農家グループ「トラ男」のプロデューサーなど、全国各地で地域活性化に取り組んでいる武田昌大さんをコーディネーターとし「北秋田市に住んでいて思うこと」「どんな仕事がしたいか・自分の仕事に求めること」「18歳を迎えるにあたり思うこと」の3つをテーマに、トークディスカッションが行われました。

※ディスカッションの主な内容は次のとおりです。

森川 尊（みこと）さん（秋田北鷹高）

藤嶋 来（らい）さん（能代高）

北秋田市に住んでいて思うこと

高校生　「住民同士の関わりが深いと感じる」「商店街の空き店舗を有効活用できれば活気が出るのでは」「ハローキティだけではなく、もっと当市のキャラクターを活用するべき」「遊べる施設がとても少ない。カラオケや喫茶店があればいい」

市長　それぞれの指摘は全くそのとおり。シャッター街への対策として行政ができることは限られているが、持ち主の方に頑張って店を開けてみようという気持ちを持ってもらえるように家賃補助などできる限りの支援はしていきたい。ハローキティは、市民に人気キャラクターを身近に感じてもらうとともに、インバウンド向けにPRする意味も含めて当市を売り出そうという戦略の一つ。ハローキティだけではなく、それぞれのキャラクターを活かす方法も考えたい。また、高校生が友達と何かを一緒にやったり話をしたりする場所が少ないと感じる。

武田　せっかくハローキティとコラボしているのだから、当市に来た人が買って帰れるグッズを販売すべきと思う。

三浦陽奈（はるな）さん（秋田北鷹高）

川村晏生（あき）さん（能代高）

金 夏織（かおり）さん（秋田北鷹高）

市長　販売できるものはやっていきたいし、地元にお金が落ちるような方策を目指したい。

どんな仕事をしたいか・自分の仕事に求めること

高校生　「放射線技師になりたい」「ものづくりをする仕事をしたい」「栄養士になりたい」「医者を目指している」「皆とコミュニケーションを取れる仕事に就きたい」「やりがいがあり、地域の問題を解決できたらよい」「美容師になりたい」「趣味に関係する仕事に就きたい」「人命救助に関わる仕事に就きたい」「理学療法士になりたい」

市長　皆さんの意見を聴いてうれしかったことは、人との関わりや周りの方を思いやるような仕事をしたいと明確な希望を言ってくれたこと。明確な目的があれば必ず道は開けてくる。今は起業する人に金融機関や行政が支援してくれる時代。一つのことに捉われず、何でもやれることが若者の特権でもあるので頑張ってもらいたい。

武田　仕事を選ぶにあたり近くの大人の話を聴くことはすごく大事。当市には、自分たちで起業している若い人がたくさんいる。実際にお店に顔を出して話を聴いたりするのもいいかもしれません。

18歳を迎えるにあたり思うこと

高校生　「参政権が与えられるので、若い人の意見が政治に反映されるのでは」「高齢者が多いので若い人の意見が反映されないのでは」「立候補者の公約がよくわからないので投票しにくい」「同じ高校3年生でも投票権がある人とない人がいるので不平等だと感じる」「もっと選挙を身近に感じることができるように説明をしてほしい」「投票所の雰囲気が会場に入りづらいと感じる」「高校を卒業していないのに成人を迎えても実感がない」

市長　参政権を与えられても、正直誰に投票したらよいかわからない状態だと思う。例えば、市の広報などを見て、市がどのようなことをやっているのか、やっていることが自分たちの感覚とずれていると思うことがあるはず。そう思った時に、自分の意見をどうやって出していけるかが選挙の始まりだと思う。公約の中から自分の意見と同じものがないか探したり、比較するなどして関心を持ってもらいたい。ただ、政治に携わっている人たちが、若い人たちに仕組みをわかりやすく教えてあげる必要があると感じる。自分で考え判断できるよう、積極的に様々な情報を集めてもらいたい。皆さんの意見を聴いて、とても頼もしいと感じた。

市長への要望・提案等

高校生　SNSを使って市をPRしていけばよいのでは。

市長　SNSを使うことも考えていかなければならないと感じる。年齢層に合った情報発信の仕方を研究していきたい。

高校生　当市はイベントが多いが周知が足りないと感じる。もっと大々的に周知するべき。

市長　気付いてもらえないポスターや発信は何の意味も成さない。観光物産協会のほか、市としてもPRや情報発信をしていきたい。

高校生　若者が地元に就職してもらうために行っている対策は。

市長　就きたい職業とのミスマッチを解消すべく商工会と協力している。また、資格取得や奨学金返済の支援など、若者が就職できるよう取り組んでいる。

高校生　県外や市外から人を呼び込むためにしていることは。

市長　移住・定住支援室を設け、移住希望者からの相談を受けたり、必要な情報提供などを行っている。これからも力を入れていきたい。

高校生　北鷹高校は市内唯一の高校なので、もっと地域の方々と交流できる機会を増やしてほしい。

市長　高校生のイベント参加は地域に元気を与えてくれる。感謝の気持ちを持ちながら、できるだけ協力をお願いしていきたい。

コーディネーター

武田 昌大（まさひろ）さん
1985年北秋田市鷹巣生まれ

藤本 巽（たつみ）さん（秋田北鷹高）

羽澤海斗（かいと）さん（秋田北鷹高）

成田悠人（ゆうと）さん（大館鳳鳴高）

菅原美咲（みさき）さん（秋田北鷹高）

安井陽菜（ひな）さん（大館鳳鳴高）